



「ヤリタナゴ」



広島県でとあるタナゴの保全活動をされておられる方曰く「ヤリタナゴもおらんようになったらお終いですよ」と。九州の福岡県は広島県と同様に知る人ぞ知るタナゴの仲間が豊富に生息する地域。中でもヤリタナゴは個体数が多く遠賀川水系や矢部川水系、筑後川水系のような大規模な河川の平野部では優占種となっている場所も多く、採集していると採れ過ぎてうんざりするほど。一方で都市部を流れる河川では激減あるいは絶滅してしまった場所もあるという。紫川も代表的な都市部を流れる川だが残念ながらヤリタナゴは風前の灯といった感じ。度重なる河川改修が行なわれる以前の10年ほど前なら本流はもちろん支流や用水路で割と見かけることが多かったが5、6年前くらいから成長しきった大型個体ばかりが採れるようになり幼魚や未成魚が全く採れなくなり、今年はずいぶん大型個体も網に入らない状況。本来タナゴの仲間は環境さえ整えば爆発的に増える繁殖能力を持つ魚。言葉は悪いがまさに「掃いて捨てるほどいる」というのが健全な水辺の姿ではなからうか。カゼトゲタナゴやバラタナゴもいなくなり、ついにはヤリタナゴも姿を消しつつある現在の紫川。最近では市民の方からもタナゴ類の減少を心配する声もあり、過去の工事で失われたタナゴ

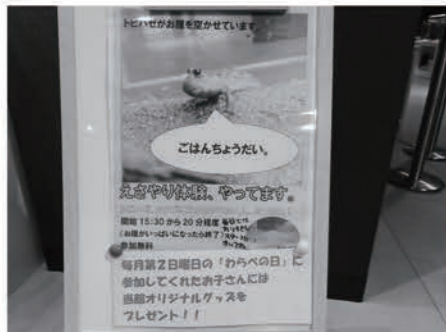
の生息に適した環境を創り出す河川工事も行なわれた。果たして数年後いや数十年後に紫川にかつてのタナゴの楽園は復活するのだろうか。

今回のヤリタナゴをもって北九州市内のタナゴの仲間は全て紹介したことになるが、やはりタナゴの話題になると河川改修による生息地の悪化とか人の手による他所の地域の個体群との交雑とか暗い話題が多くなってしまふのが珠に疵。



スタッフの飼育日誌

“餌やり体験はじめました!”



現在お客様満足度向上強化月間としてアンケートに書かれた皆さんの数々のリクエストにお応えしようと、中でもリクエストの多かった餌やり体験を6月から実施しています。人差し指の先に赤虫を乗せトビハゼの水槽に指を入れるとお腹を空かしたトビハゼたちがあなたの指をおしゃぶりしにやって来ますよ。「ちゅぱちゅぱ」とおしゃぶられる感触は病みつきになること間違いありません!この

感触強いて例えるならカミソリで毛を剃っている時のあの感覚に近いかもしれません。しかもこのイベント土日だけでなく、平日も行なっているんです!時間は15:30から20分程度で餌の赤虫がなくなり次第終了となります。その他の生き物たちへの餌やり体験も計画中ですのでお時間のある方は是非水環境館で生き物たちとの触れ合いにご参加ください。



夜の山田緑地で 生き物探しを開催しました



2018年6月17日(日)に小倉北区の山田緑地で夜の生き物観察会を行ないました。梅雨時の森の主役と言えばカエルをはじめとする両生類の仲間たち。山田緑地は北九州市内でも有数の自然観察ポイントですが中でも両生類の種数が豊富なことでも知られ両生類のホットスポットとなっています。しかもこの時期は複数種類のカエルの繁殖期にあたり、音色の異なるオスの鳴き声が楽しめます。ところが今回梅雨の中休みが数日続いたおかげで乾燥気味だったせいか姿を現した両生類も少なく、鳴き声もほとんど聞こえてこないという残念な結果に終わりました。ただ暗闇を照らすゲンジボタルやヘイケボタルの幻想的な光やカゲロウの仲間の空中を乱舞する繁殖行動など両生類以外にも様々な生き物の営みを観察することができました。